

2021.11.20. 日本生活科・総合的学習教育学会シンポジウム

生活科・総合的な学習の時間における個別最適な学び



佐野亮子(東京学芸大学・非常勤)

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

①個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）

- ◆ **新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが示されており、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要**
- ◆ **GIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要**
- ◆ **その際、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、子供たちに必要な力を育む**

指導の個別化

- 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、**支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現**
・特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

学習の個性化

- 基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、**子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する**

- ◆ 「個別最適な学び」が進められるよう、これまで以上に**子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援**することや、**子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる**
- ◆ その際、ICTの活用により、**学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ、健康診断情報等を利活用することや、教師の負担を軽減することが重要**

それぞれの学びを一体的に充実し 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

②協働的な学び

- ◆ 「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、**探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要**
- ◆ **集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせたり、よりよい学びを生み出す**
- 知・徳・体を一体的に育むためには、教師と子供、子供同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動など、**様々な場面でリアルな体験を通して学ぶことの重要性が、AI技術が高度に発達するSociety5.0時代にこそ一層高まる**
- 同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや、ICTの活用による空間的・時間的制約を超えた他の学校の子供等との学び合いも大切

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_1-4.pdf

① 個別最適な学び

- ◆ 新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが示されており、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要
- ◆ GIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要
- ◆ その際、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、子供たちに必要な力を育む

② 協働的な学び

- ◆ 「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要
- ◆ 集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせさり、よりよい学びを生み出す

ex.) 一斉指導～自力解決～グループか全員で協議
クラウド型授業支援アプリを使えばICTもバッチリ？



それぞれの学びを一体的に充実し
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

「個に応じた指導」を
確認してみた

小学校学習指導要領 総則 第1章 第4 児童の発達の支援

1 児童の発達を支える指導の充実

(4) 児童が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、児童や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、児童の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることや、教師間の協力による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、**個に応じた指導の充実**を図ること。その際、第3の1の(3)に示す情報手段や教材・教具の活用を図ること。

指導の個別化

● 基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、

・支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現

・特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う

学習の個性化

● 基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する

個別最適な学び(=公正に個別最適化された学び)

「個に応じた指導」の経緯

はじまりは50年前

1971(昭和46)年 中央教育審議会答申

「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」

(序文には「国家・社会の未来をかけた第三の教育改革」と謡われる)

初等・中等教育改革の基本構想において、個人の特性に応じた教育方法の改善を提案
検討課題としては4つ

- ①グループ別指導など弾力的な学級経営を行う
- ②特性に応じてもっとも合理的な勉学ができるような個別学習の機会を設ける
- ③指導を学年別に行うことを固定化せず弾力的な指導のしかたを認める
- ④上級の段階では能力に応じて進級・進学に例外的な措置を認める

→「能力別」や「飛び級」をイメージさせる提案に「能力主義の助長」と批判される

「自ら学ぶ力を育てる～指導の個別化・学習の個性化」を目指す
実践が草の根で広がる

1987(昭和62)年 臨時教育審議会答申「個性重視の原則」

1989(平成元)年告示小学校学習指導要領総則

「各教科等の指導に当たっては、学習内容を確実に身に付けることができるよう、
児童の実態等に応じ、**個に応じた指導**など指導方法の工夫改善に努めること」

先駆的事例があった

愛知県東浦町立緒川小学校のカリキュラム (1980年代～)

- 「集団学習」(通常の教科指導)
 - 「集団活動」(特別活動に相当)
 - 「総合的学習」(現在の総合に相当)
- 他に以下の個別化された実践を開発
- 「はげみ学習」
 - 「週間プログラム」による学習
 - 「オープン・タイム」

学習活動	教師の教授活動			児童の学習活動		
	教科			総合		
	指導の個別化 ←			→ 学習の個性化		
学習の 態 様	「はげみ学習」 文字・読書・数 リコーダー・鍵盤 マット・とび箱 鉄棒・水泳	「 <u>集団学習</u> 」 小ゼミ形式の学習 ・一斉学習 ・マスター・ ラーニング	「週間プログラム」による学習 高学年ブロック	「総合的学習」 高学年ブロック	「オープン・タイム」の学習 高学年ブロック	「 <u>集団活動</u> 」



「学力」と「学習力」を身につける

写真は1985年頃に撮影されたもの

先駆的实践・オープン・タイム

- ◆各自の興味・関心に基づき、自由に学習内容を設定して探究する学習
- ◆今日でいう「個人総合」(個人により課題が異なる総合的な学習)に相当
- ◆3年生(あるいは4年生)以上の全校チーム・ティーチングにより、毎週1回85分実施
- ◆計画力や自己評価能力の育成を目指し、1つのテーマを最低4回=1ヶ月程度連続して追究することが求められる



室町文化の学習をきっかけにお点前に挑戦



地域のボランティアから
手芸を教わる



廃車のバイクを解体して仕組みを調べる

授業改善の視点

個に応じた指導の「個」とは何をさすのか



どのような個人差や学習特性が存在するか

- ・学習速度 例:「5分でふり返りを書きましょう」で足りない／余る
- ・習熟度 例:九九の習得が不十分な子にわり算の筆算
- ・学習適性 例:継次処理/同時処理、帰納/演繹、具体/抽象など
- ・興味・関心 例:物語より図鑑が好き、特定事象だと考えやすい
- ・生活経験 例:きょうだいが多い子は〇〇が得意？

子どもの個人差や学習特性に応じる指導には

多様な学習方法(指導方法)が存在する

(ATI=適性処遇交互作用)

総合的な学習の時間におけるカリキュラム構成の工夫

みんなで過ごす空間の中に
個人スペースを確保



個別の追究を協働的な学び
いかすカリキュラム

個別の部屋を確保



みんなで過ごす
スペースを確保

学習の個性化を個別で保障する
カリキュラム